

釜フェリーは韓国ファンにとって、一度は乗ってみたい「夢の航路」なのです。

船旅って、飛行機の旅とは全然違う味わいがあります。出航時はドラの音を合図に船出します。一夜を船で過ごすことで、乗客はまさに運命共同体となるのです。それに関釜フェリーには、ポツタリさんたちの元気なにぎわいがあります。

私にとっての今回の旅は、釜山が終点ではありません。下船後は、釜山の知人を訪ねます。日本で暮らしたことのあるその老婦人は、日本の「かまぼこ」の味が忘れられないと日頃おっしゃっていました。今回は下関の美味しいかまぼこをたくさん仕入れて、お訪ねします。

その後は、さらに地方をめざします。今回は慶尚南道^{キョンサンナムド}の牛浦沼^{ウポ沼}という自然保護地区に選定されている韓国最大の沼へ。

ここ10年余り、私は韓国の地方を旅して歩いていきます。下関の思い出を枕に、釜山沖の五六島^{オリエント}を眺めて朝を迎えられるなんて、幸せです。

それではアンニョン、ト マンナプシダ(さようなら) また会いましょう。

憧れの関釜フェリーまで、あと一歩。「旅の結果はブログも見てね!」



黒田福美(くろだ・ふくみ)

1956年、東京都生まれ。77年、TBSポーラテレビ小説『夫婦ようそろ』でデビュー。2009年『ビバリーヒルズチワワ(吹き替え)』(Disney)、『ゼロの焦点』(東宝)、2010年『遠く空』に出演。映画・テレビドラマなどで俳優として活躍する一方、芸能界きっての韓国通として知られる。テレビコメンテーターや日韓関連のイベントにも数多く出演、講演活動なども活発。韓国観光名誉広報大使、日韓交流おまつり実行委員も務め、2010年10月浦項市広報大使に任命。これらの功績により2011年5月、大韓民国より「修交勲章 興仁章」を受賞した。著書は『ソウルマイハート』『ソウルの達人 最新版』(いずれも講談社)など多数。

©黒田福美ブログ <http://ameblo.jp/kuroda-fukumi/>

興仁章を受けて。左は当時の駐日本国大韓民国特命全権大使・権哲賢さん(6月に離任)。